

Endogenous timing in a price-setting mixed duopoly with a foreign competitor

大西一弘 (Kazuhiro Ohnishi)

Osaka University, Ph D

ohnishi@e.people.or.jp

2012年10月14日 (日)

日本国際経済学会第71回全国大会

報告要旨

公企業と外国の私企業との国際混合市場は、以前の共産主義国家ばかりではなく先進国や発展途上国など世界中に存在する。例えば、公企業は、銀行、航空、たばこなどの産業で外国の私企業と競争している。

公企業と外国の私企業との国際混合市場のモデルは生産量競争で行われ、そして次の3つの分析が行われている。まず1番目として、国際混合市場において、公企業はリーダーであるべきかフォロワーであるべきかが分析され、そしてリーダーとして行動することにより国内の経済厚生は増加することが明らかにされている。次に2番目として、外国の企業を排除するべきかどうか分析され、そして外国の企業を排除するならば、国内の経済厚生は減少するということが明らかにされている。最後に3番目として、公企業と外国の私企業が生産量選択に先だって、まず生産量を選択する順番を内生的に決定するモデルが分析され、そしてこのモデルの均衡においては、公企業はリーダーとして行動することになることが明らかにされている。

本論文では、公企業と外国の私企業が価格競争を行う国際混合市場モデルを考慮し、そして生産量競争モデルと同じ3つのケースのそれぞれの結果を明らかにする。本論文の価格モデルの結果は、生産量モデルの結果と比較される。

まず1番目の公企業はリーダーであるべきかフォロワーであるべきかにおいて、公企業はリーダーとして行動することにより国内の経済厚生は増加することが明らかにされる。この結果は生産量モデルと同じである。

次に2番目の外国の企業を排除するべきかどうかにおいて、外国の企業を排除するならば、国内の経済厚生は減少するということが明らかにされる。この結果も生産量モデルと同じである。

最後に3番目の公企業と外国の私企業が価格選択に先だって、まず価格を選択する順番を内生的に決定するモデルの均衡において、公企業はリーダーとして行動することは出来ないということが明らかにされる。価格モデルのこの結果は、均衡において公企業はリーダーとして行動することを明らかにしている生産量モデルの結果とは全く異なっている。